

05

歌舞伎町：眺めの封閉

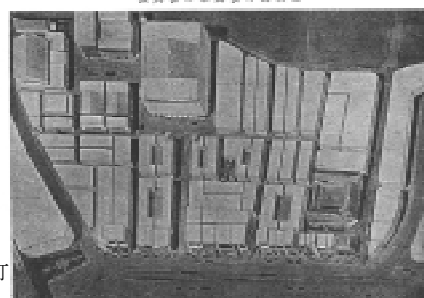
（新宿区歌舞伎町）



コマ劇場前広場



コマ劇場前広場（上記写真とは反対側から）



復興後の歌舞伎町
（鈴木喜兵衛『歌舞伎町』1955年）

□隣保感のための眺めの操作

都市展望の丘の重要性を主張し、都市における眺望保全の先駆者であった石川栄耀は、新宿歌舞伎町の設計を指導したことで有名である。東京都建設局長であった石川は戦後すぐ、地元の商店主らと協働して歌舞伎座を中心とした健全なる盛り場の育成を目指したのだ。

歌舞伎町では、都市展望の丘とは全く逆の方向で、眺めを強く意識した設計がなされている。それは「景観の封閉」という手法である。

「景観の封閉とは、視野がどの方向に対しても盛り場外に解放されてる事なき様街景が構成されている事である。之れは日本庭園の重要な技巧でもあるのであるが、隣保感

上欠く事が出来ないものなのである。」

歌舞伎町の中心であるコマ劇場前広場はまさにこの考えに依拠して設計されたものだ。自由な交流、交歓を促す、安心して佇むことのできる「ほっとする」感じを、四方を建物で完全に囲まれた広場で演出したのである。

また、歌舞伎町全体では、T字路や微妙に屈折した街路が基本となっており、真っ直ぐに見通しがきく場所は意図的に少なくしてある。眺めをまちに封じ込めているのだ。

眺めは時に閉じることで意味を持つ。そして、盛り場に適用されるこうした求心的な封景と、尾の道に代表される開放的な展望との共存こそが、都市に深みを与えるのだ。

【参考】西成典久ら（2004）「石川栄耀の広場設計思想 新宿コマ劇場前広場をめぐって」日本都市計画学会都市計画論文集、No.39-3、907-912頁